

日本教育方法学会

第44回大会プログラム

《大会日程》

第 一 日 10 月 11 日・土	8 : 30	受 付 開 始										
	9 : 30	課 題 研 究 I					課 題 研 究 II					
		子どものルール、モラルの教育をどうするか					特別支援教育と授業づくりの課題					
	11 : 30											
	11 : 40											
	12 : 30	総 会										
	13 : 30	休 憩										
		自由 研究 1	自由 研究 2	自由 研究 3	自由 研究 4	自由 研究 5	自由 研究 6	自由 研究 7	自由 研究 8	自由 研究 9	自由 研究 10	自由 研究 11
	15 : 40											
	15 : 50	公 開 シ ン ポ ジ ウ ム										
		新学習指導要領における教育方法学の課題 ー教育現場への提言ー										
	18 : 20											
	18 : 30											
	20 : 00	会 員 懇 親 会										

第 二 日 10 月 12 日・日	8 : 30	受 付 開 始											
	9 : 15	自由 研究 12	自由 研究 13	自由 研究 14	自由 研究 15	自由 研究 16	自由 研究 17	自由 研究 18	自由 研究 19	自由 研究 20	自由 研究 21	自由 研究 22	自由 研究 23
	11 : 55	休 憩											
	13 : 00	課 題 研 究 III 学級経営・学級づくりの再検討						課 題 研 究 IV 授業力の育成と教職大学院の課題					
	15 : 00												
	15 : 20												
	16 : 50	ラウンドテーブル①			ラウンドテーブル②			ラウンドテーブル③			ラウンドテーブル④		

2008年10月11日(土)・10月12日(日)

於 愛知教育大学

大会参加要領

1. 会場案内：会場は、愛知教育大学です。会場への経路につきましては、次頁をご参照ください。

2. 受付：両日ともに8：30からとなります。

受付は第一共通棟ホールで行います。

- ・大会参加費（発表要旨集録代を含む）は、一般会員4,000円、学生会員3,000円です。
- ・当日会員（臨時会員）もこれに準じて受け付けております。
- ・本年度までの学会費（一般会員8,000円、学生会員6,000円）を未納の方は、あわせてお納めください。
- ・本年度の学会費を納入された方には、受付にて『教育方法37』をお渡しします。
- ・会員懇親会の参加受付も行いますので、ふるってご参加ください。会費は4,000円となっております。詳しくは、15頁の「インフォメーション」をごらんください。
- ・受付にてネームプレートを用意しておりますので、お名前をお書きのうえ、おつけください。

3. 昼食：土日ですが、学内の食堂が営業しておりますので、ご利用下さい。

4. 研究発表：発表会場につきましては、4・5頁の「会場配置図」をごらんください。

- ・自由研究の発表時間は、以下の通りです。

個人研究：発表20分 質疑10分

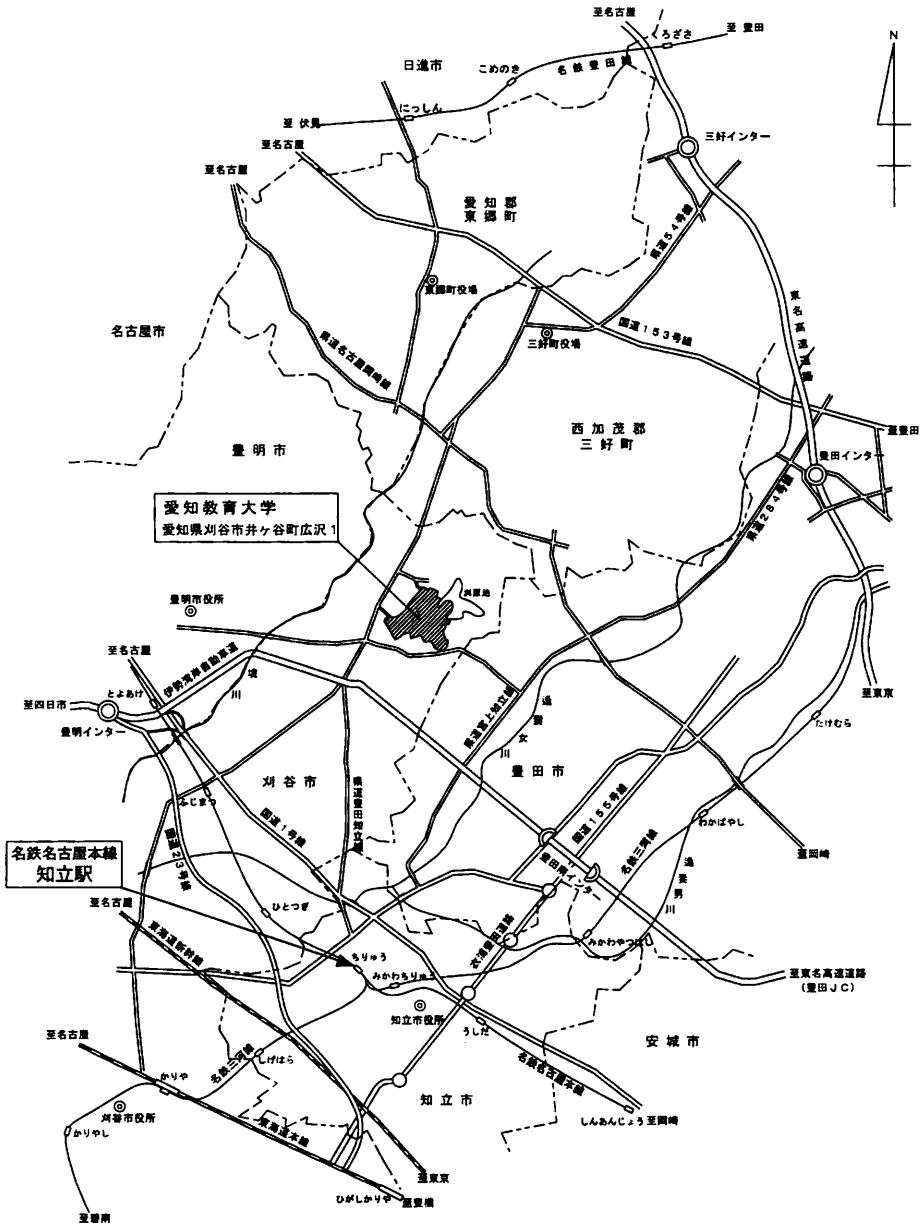
共同研究：発表30分 質疑10分

（但し、口頭発表者が1名の場合は、個人研究に準じます。）

- ・自由研究における共同研究発表者の氏名にある○印は口頭発表者を表しています。

※大会に関するお問い合わせは、前々日9日までに学会事務局（TEL/FAX：082-424-6744）にお願いいたします。

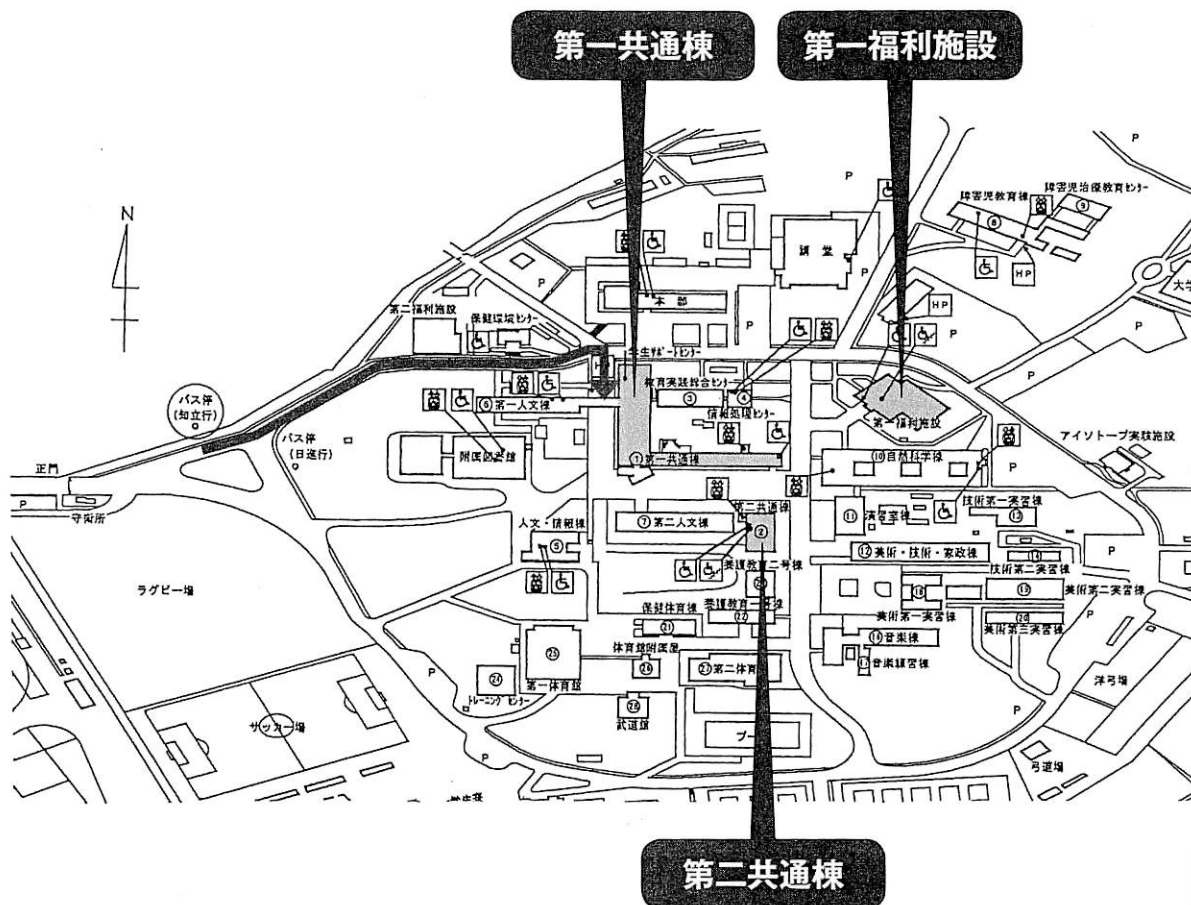
〈愛知教育大学案内図〉



愛知教育大学への交通手段については、下記をご参照ください。

- ① JR名古屋駅から名鉄新名古屋駅（徒歩すぐ）
名鉄名古屋本線（豊橋方面）知立駅 下車後
名鉄バス東境方面 愛知教育大学前 下車（所要時間約20分） 大学まで 340円
- ② JR豊橋駅から名鉄豊橋駅（同一構内）
名鉄名古屋本線（名古屋方面）知立駅下車
名鉄バス東境方面 愛知教育大学前 下車（所要時間約20分） 大学まで 340円
- ③ 東名高速道路 豊田インターチェンジから車で約20分
- ④ 伊勢湾岸自動車道 豊田南インターチェンジから車で約15分

〈会場配置図〉



会場配置

総 会	： 第二共通棟411講義室
課題研究Ⅰ・Ⅲ	： 〃 411講義室
課題研究Ⅱ・Ⅳ	： 〃 421講義室
公開シンポジウム	： 〃 431講義室
自由研究1・12	： 第一共通棟303講義室
自由研究2・13	： 〃 304講義室
自由研究3・14	： 〃 305講義室
自由研究4・15	： 〃 306講義室
自由研究5・16	： 〃 307講義室
自由研究6・17	： 〃 308講義室
自由研究7・18	： 〃 309講義室
自由研究8・19	： 〃 310講義室
自由研究9・20	： 〃 311講義室

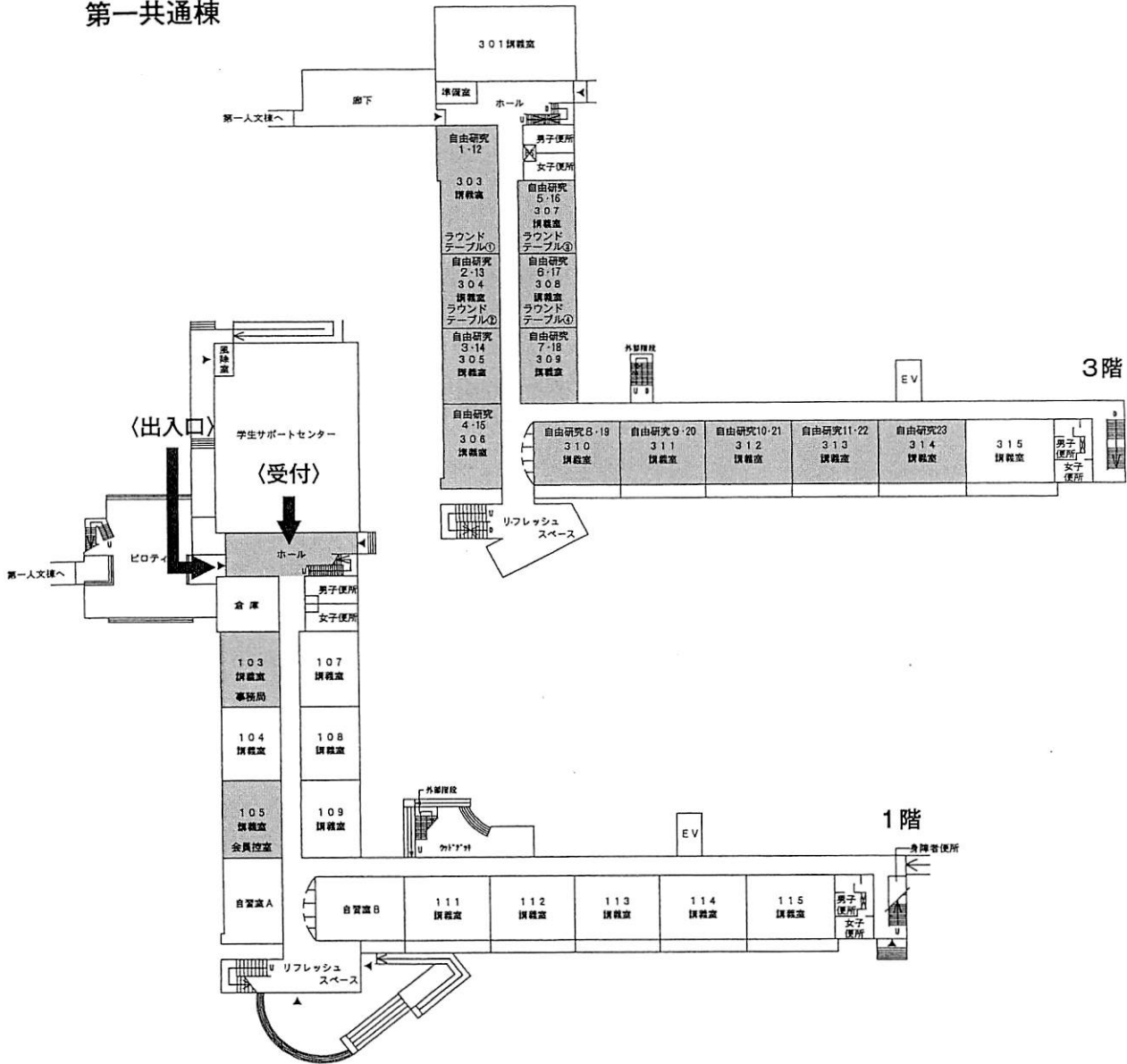
自由研究10・21	:	第一共通棟312講義室
自由研究11・22	:	〃 313講義室
自由研究23	:	〃 314講義室
ラウンドテーブル①	:	〃 303講義室
ラウンドテーブル②	:	〃 304講義室
ラウンドテーブル③	:	〃 307講義室
ラウンドテーブル④	:	〃 308講義室

會員控室：第一共通棟105講義室
事務局：〃 103講義室

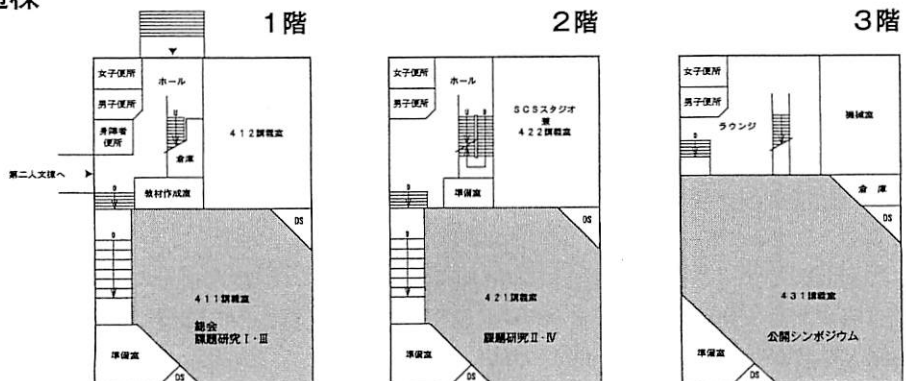
※会員懇親会は第一福利施設2階「HANDS」で開催いたします。

〈教室 配置 図〉

第一共通棟



第二共通棟



課題研究 I

子どものルール, モラルの教育をどうするか

(第二共通棟411講義室)

コーディネーター・司会者

柴田 義松 (東京大学名誉教授)

三橋 謙一郎 (徳島文理大学)

提案者

麻生 信子 (授業塾主宰) 大人も子どもも「書くこと」で事実の直視を……… 29

庄井 良信 (北海道教育大学) 揺れる情動の響き合いから内発的モラル

(endogenous moral) の回復へ

— 発達の「幼さ」を抱える教育臨床事例から —…… 31

藤田 昌士 (元・立教大学) 学校のエデュケーション全体を通じて行う道徳教育

— その批判と創造 —…………… 33

〈設定趣旨〉

「衣食足りて礼節を知らず」ということが、今の子どもについて言われる。子どもたちの起こす軽犯罪でもっとも多いのは万引きだが、家庭が貧しくて万引きするのではない。つまらない、退屈だからというので、他人のものを盗んだり、弱い者いじめをしたりする。しかもグループでいじめをする。それがリーダーいびりになり、リーダーいびりが、教師いびりに進むと、学級崩壊、授業崩壊にまでつながることになる。

「ムカツク」「キレル」といった子どもの「荒れ」が問題となる一方、「見ない」「聞かない」「知らんぷり」のさめた子ども、「できない」「動かない」「遊べない」といった何事にも「やる気」を失った三無主義の子どもが増大しているとも言われる。こうした子どもの「荒れ」にせよ三無主義にせよ、教育の不足からというより、むしろしばしば過剰からきていることに、現在の子どもの不幸があり、問題の深刻さがある。

子どもの「やる気」を引き出したり、人間的な望ましい感受性を育てるうえで学校にできることは何だろうか。

道徳的感情とか人間としての望ましい生き方の指導については、政治家たちの思惑もあって、かつての修身教育のように、ことばで説明し、説得しようとする傾向が、わが国では依然として根強い。新学習指導要領でも、「学校における道徳教育は、道徳の時間を〈要〉として学校の教育活動全体を通じて行うもの」とされている。だが道徳の時間の指導は、実際には、「指導が形式化して」、学年の段階が上がるにつれ、「子どもたちの受け止めがよくない」、つまり道徳の時間が「ためになる」と感じている子どもが、中学校では半分以下という実態が文科省の調査などでも明らかにされている。

本課題研究では、こうした子どもの社会的ルール、モラルの教育をめぐる混迷から現代の学校が抜け出すためにはどうしたらよいのか、教育方法学の立場からの積極的・実践的な提案と活発な論議・検討が行われることを期待したい。

10月11日(土) 9:30~11:30

課題研究Ⅱ

特別支援教育と授業づくりの課題

(第二共通棟421講義室)

コーディネーター

奥平 康熙 (和光大学)

湯浅 恭正 (大阪市立大学)

司会者

小川 英彦 (愛知教育大学)

奥平 康熙 (和光大学)

提案者

瀬下 智博 (名古屋市内公立中学校) 特別なニーズを持った生徒を含めた学級づくり

ーゴンも楽しいクラスメイトー…………… 35

湯浅 恭正 (大阪市立大学) 学級を視野に入れた特別支援と授業のあり方…………… 37

指定討論者

新井 英靖 (茨城大学)

〈設定趣旨〉

2007年に特別支援教育の法制度がスタートして1年以上が経過した。通常の学校・学級において特別支援教育を推進するための条件整備とともに、授業実践のこれからをどう展望するかが問われている。①特別支援を視野に入れた授業の枠組みをどう捉えるのか、②障害と発達を考慮しつつ、個別の支援と授業での集団づくりをどう進めていくのか、③特別支援と教材・教具、④授業の展開過程における学習支援のあり方、⑤特別支援の専門性と授業づくりの力量形成など、解明されていない課題は多岐にわたっている。

本課題研究では、教育課程論・学力論を視野に入れつつ、通常の学校・学級における授業づくりの課題とは何かを検討し、特別支援を視点に、これまでの授業をどう変えていくのか、授業づくりとその研究のあり方を展望したい。

なお、特別支援教育に関しては、一昨年の課題研究では「学級経営」の視点から検討したが、本課題研究でも、授業の基盤である学級づくりを視野に入れた授業のあり方を議論する予定である。

10月11日(土) 13:30~15:40

自由研究1

(第一共通棟303講義室)

司会者 水原克敏(東北大学)
溝邊和成(甲南女子大学)

- 13:30 ① 及川平治における「動的教育」講習の内容分析
—教材研究の方法と意義— 39
伊藤真治(滋賀大学教育学部附属小学校)
- 14:00 ② 戦後新教育期の教師の実践的「見通し」に関する研究
—奈良師範学校女子部附属小学校に焦点をあてて— 40
大島 崇(横浜国立大学大学院・研究生)
- 14:30 ③ 小学校教員の修身科授業構想の変容 41
板橋雅則(筑波大学大学院)
- 15:00 ④ 西尾実における「行的認識」の再検討 42
齋藤智哉(國學院大学・非常勤,
法政大学・非常勤)

自由研究2

(第一共通棟304講義室)

司会者 岩垣 攝(千葉大学)
牧戸 章(滋賀大学)

- 13:30 ① 物語の授業を構造的に記述する試み
—感想相互評価の多変量解析— 43
中道豊彦(愛知県立知多翔洋高等学校)
- 14:00 ② 授業における言語活動の分析方法
—クレス(Kress, G.)を手がかりに— 44
八木秀文(広島大学大学院)
- 14:30 ③ 授業記録を集積することの意味
—重松鷹泰氏を中心として収集された授業記録群に焦点をあてて— 45
田上 哲(九州大学)
- 15:00 ④ 授業研究における叙述形式に関する実証研究
—分析単位を中心にして— 46
的場正美(名古屋大学)

10月11日(土) 13:30~15:40

自由研究3

(第一共通棟305講義室)

司会者 久野弘幸(愛知教育大学)
山下政俊(島根大学)

- 13:30 ① 近代教授思想における学級教授論の構造と変容…………… 47
熊井将太(広島大学大学院)
- 14:00 ② 「教育的教授」論とギーフェンベック基礎学校プロジェクト…………… 48
牛田伸一(日本大学・研究員)
- 14:30 ③ 戦後オーストリアの教育実践に関する一考察
—1920年代の労作教育の影響—…………… 49
伊藤実歩子(甲南女子大学)
- 15:00 ④ イエナ・プラン校の学習スタイルで育まれる社会性と主体性の実相…………… 50
伏木久始(信州大学)

自由研究4

(第一共通棟306講義室)

司会者 浅沼 茂(東京学芸大学)
矢澤 雅(名古屋学院大学)

- 13:30 ① ジェンダー教育とカリキュラムの検討
—エンパワーメントに着目して—…………… 51
上森さくら(大阪市立大学大学院)
- 14:00 ② イタリアの歴史教育における授業論
—ラボラトリー概念の検討をととして—…………… 52
徳永俊太(京都大学大学院)
- 14:30 ③ スコットランドの学校教育はどう評価されているか
—スコットランド日本語補習授業校の保護者意識調査を素材に—…………… 53
富田充保(札幌学院大学)
- 15:00 ④ 1970年代西ドイツの批判的教育学の学習指導案に関する一考察…………… 54
中野和光(美作大学)

10月11日(土) 13:30~15:40

自由研究5

(第一共通棟307講義室)

司会者 土井捷三(園田学園女子大学)
中野真志(愛知教育大学)

- 13:30 ① オーストラリアにおけるグローバル教育実践の特質
—単元「水は金よりも大切?」の授業分析を通して—…………… 55
木村 裕(京都大学大学院)
- 14:00 ② 「わかる授業」成立の要件
—学習中に生み出される子どもの言葉から—…………… 56
大杉 稔(滋賀県高島市立新旭北小学校)
- 14:30 ③ 教育課程編成における教授学的原理の機能と課題…………… 57
吉田成章(広島大学)
- 15:00 ④ 授業実践の様相—解釈
—「発言表」を使用する授業分析—…………… 58
田代裕一(西南学院大学)

自由研究6

(第一共通棟308講義室)

司会者 大野栄三(北海道大学)
久田敏彦(大阪教育大学)

- 13:30 ① 「学びの共同体」における学習ディスコース (learning discourse)
に関する実証的研究…………… 59
藤井佑介(長崎大学大学院)
- 14:00 ② ドイツの教育課程におけるプロジェクトの位置づけ…………… 60
渡邊真依子(鈴峯女子短期大学)
- 14:30 ③ 社会奉仕体験活動のあり方に関する一考察
—東京都高等学校必修教科「奉仕」を事例として—…………… 61
宮崎 猛(創価大学)
- 15:00 ④ 「自然の里」体験塾の理念とその実践…………… 62
○石村秀登(熊本県立大学)
○石村華代(鹿児島純心女子大学)

10月11日(土) 13:30~15:40

自由研究7

(第一共通棟309講義室)

司会者 平山勉(名城大学)
湯浅恭正(大阪市立大学)

- 13:30 ① 「からだ」の授業の指導技術
—重度重複障害児教育における「主体的な学び」を促す授業構成論(その4)—… 63
尾添信枝(兵庫教育大学大学院・研究生)
- 14:00 ② プラクティススクールによる教職実践演習の試行とその成果(1)
—概要と総括的評価—… 64
○小林稔(琉球大学)
岩田昌太郎(広島大学)
- 14:30 ③ プラクティススクールによる教職実践演習の試行とその成果(2)
—体育系PSの質的分析—… 65
○岩田昌太郎(広島大学)
小林稔(琉球大学)
- 15:00 ④ 知的障害のある人の高等教育について
—オープン・カレッジ開校10年の実践より—… 66
岩永力男(大阪大学)

自由研究8

(第一共通棟310講義室)

司会者 安藤輝次(奈良教育大学)
川合春路(大阪樟蔭女子大学)

- 13:30 ① 「総合的な学習の時間」における教師の役割の問い直し
—「正統的周辺参加論」からの学習観転換によって—… 67
小野沢美明子(日本大学・研究員)
- 14:00 ② 現地体験型学習のラーニング・アウトカムズ
—共同・移行を見据えて—… 68
杉原真晃(山形大学)
- 14:30 ③ 創造的問題解決を伴った表現力育成のための授業改善に関する研究… 69
○横島三和子(湊川短期大学・非常勤)
岡田雅樹(湊川短期大学)
- 15:00 ④ 子どもの割合概念の発達
—総合的な学習としての「単位量あたりの大きさ」—… 70
黒澤和美(福島市立茂庭小学校)

10月11日(土) 13:30~15:40

自由研究9

(第一共通棟311講義室)

司会者 堀 哲 夫 (山 梨 大 学)
山 住 勝 広 (関 西 大 学)

- 13:30 ① 教室における科学的コミュニティの生成過程
—中学校理科の授業実践を通して—…………… 71
叶 田 真規子 (首都大学東京大学院)
- 14:00 ② 理科に強い幼児教育者養成のために
—養成校としての試み—…………… 72
神 戸 洋 子 (帝 京 科 学 大 学)
- 14:30 ③ 摩擦力の指導から考察した教科内容の現代化…………… 73
工 藤 保 広 ((財)北海道科学技術総合振興センター)
- 15:00 ④ 北海道立理科教育センターが北海道の理科振興に果たした役割と
その成果, 課題…………… 74
境 智 洋 (北海道教育大学釧路校)

自由研究10

(第一共通棟312講義室)

司会者 新 井 英 靖 (茨 城 大 学)
庄 井 良 信 (北 海 道 教 育 大 学)

- 13:30 ① 特別支援教育の学びの「場」
—病弱教育における居場所について—…………… 75
佐 竹 真 (日 本 大 学 大 学 院)
- 14:00 ② Effective Learning における effective 概念とインクルージョン
—Chris Watkins の理論を中心に—…………… 76
今 井 理 恵 (大阪市立大学大学院)
- 14:30 ③ 特別支援教育における授業展開の教授学的検討…………… 77
吉 田 茂 孝 (高 松 大 学)
- 15:00 ④ 教育実践における教育・ケア・福祉の三位一体性に関する研究…………… 78
○住 野 好 久 (岡 山 大 学)
中 山 芳 一 (岡 山 大 学 大 学 院)

10月11日(土) 13:30~15:40

自由研究11

(第一共通棟313講義室)

司会者 小川 博久(聖徳大学)
山田 綾(愛知教育大学)

- 13:30 ① 保育行為の背後にある保育者の思考を探る
— 4歳児の協同的な遊びへの語りを通して— 79
○古賀 琢也(広島大学大学院)
中坪 史典(広島大学)
岡花 祈一郎(広島大学)
- 14:00 ② いのちの理解を培う保育方法の研究
— 5歳児の取り組みを中心に— 80
○前田 志津子(活水女子大学)
清水 陽子(西南女学院大学)
- 14:30 ③ 子どもの領域概念の発達における共有と区分についての一考察 81
藤原 新(東北大学大学院)
- 15:00 ④ 絵本による幼児の天体認識の変容に関する基礎的研究(Ⅱ)
— 太陽に対する認識を中心に— 82
○小谷 卓也(大阪大谷大学)
○長瀬 美子(大阪大谷大学)

10月11日(土) 15:50~18:20

公開シンポジウム

新学習指導要領における教育方法学の課題

— 教育現場への提言 —

(第二共通棟431講義室)

コーディネーター・司会者

市川 博(帝京大学)

豊田 ひさき(中部大学)

提案者

子安 潤(愛知教育大学) 学びの全体性と構成的参加

— 新学習指導要領下の授業を超えて —…………… 83

須田 勝彦(北海道大学) 「ゆとり」が消えても追究したいもの…………… 85

西岡 加名恵(京都大学) 学校におけるカリキュラム改善

— 「逆向き設計」論を踏まえて —…………… 87

指定討論者

佐久間 敦史(大阪教育大学)

〈設定趣旨〉

文部科学省は、今年3月、確かな学力の育成をめざして、①基礎的・基本的な知識・技能の習得、②思考力、判断力、表現力、知識・技能の活用力の育成、③学習意欲の向上や学習習慣の確立を柱とする学習指導要領を公示しました。

確かな学力を育成するためには、これらを三位一体ととらえ、時間をかけてじっくりと、同時平行的に指導していく必要がありますが、そのための時間的ゆとりと教員の増員という条件整備もないままに、教育内容の増加、基礎・基本の徹底、「公共」重視の名の下に規範・ルールの厳守などが強調され、教え込み教育が激化される恐れがあります。三位一体の教育を進めていくには、たとえば、教育の現場で、基礎・基本の徹底と活用力の促進とをいかに統一して具現していけば、一人ひとりの子どもに学力を保障していくことができるかという教育方法学的な究明を抜きにしては不可能です。

こうした状況を教育方法学としてどうとらえ、教育の現場に具体的な知恵と勇気をどう提示していくかを明らかにしていくことを願って本テーマを設定しました。

インフォメーション

●会員総会

日 時 : 第1日(10月11日(土)) 11:40～12:30

会 場 : 第二共通棟411講義室

主な議題 : 会務報告

2007年度決算

2009年度予算案

次期大会校

昼食・休憩前ですが、ぜひとも多数ご参集ください。

●会員懇親会

日 時 : 第1日(10月11日(土)) 18:30～20:00

会 場 : 第一福利施設2階「HANDS」

会 費 : 4,000円

会員相互の親睦をはかるため、懇親会を開きます。多数の会員のみなさまの参加をお願いいたします。

●書籍販売について

学会事務局では、受付にて学会機関誌『教育方法』、研究紀要『教育方法学研究』の最新刊およびバックナンバーを、会員割引価格で販売いたします。この機会にぜひお求めください。

また、本大会の『発表要旨集録』を別途希望される方には、1冊800円にて頒布いたします。

なお、『教育方法』最新刊(第37巻)は、本年度の学会費を納入された方には、受付の際にお渡しいたします。(大会以降に学会費を納入された方には、随時お手元に郵送いたしております。)

自由研究12

(第一共通棟303講義室)

司会者 碓井 岑夫(四天王寺国際仏教大学)
住野 好久(岡山大学)

- 9:15 ① 1920年代における野村芳兵衛の生活指導実践
-「自分らしく生きる」ことの指導目標-..... 89
小見 茂樹(京都大学大学院)
- 9:45 ② 聞き取り調査による教育実践史料の再検討..... 90
狩野 浩二(十文字学園女子大学)
- 10:15 ③ 明石附小の訓導に見られる及川理論..... 91
溝邊 和成(甲南女子大学)
- 10:45 ④ 子供の不安に見る複雑性の縮減としての学校秩序
-学習指導・生徒指導の合意形成スキームをこえて-..... 92
早坂 淳(筑波大学・準研究員)
- 11:15 ⑤ 「学習の共同化」論の枠組みに関する検討(1)
-学習集団論における学級と自治を中心に-..... 93
今井 理恵(大阪市立大学大学院)
上森 さくら(大阪市立大学大学院)
長瀬 美子(大阪大谷大学)
○久田 敏彦(大阪教育大学)
福田 敦志(大阪樟蔭女子大学)
○船越 勝(和歌山大学)
湯浅 恭正(大阪市立大学)

自由研究13

(第一共通棟304講義室)

司会者 高田 清(福岡教育大学)
山崎 準二(東京学芸大学)

- 9:15 ① 「学級崩壊」のなかでの授業の展開
-ボランの価値論に基づく教師-生徒関係の捉え直し-..... 94
福田 学(東京大学・研究員)
- 9:45 ② いじめ予防のための学級・学校づくり..... 95
福田 八重(愛知教育大学・非常勤)
- 10:15 ③ コンプリヘンシブ改革期のイギリスにおける学級編成の問題..... 96
二宮 衆一(愛媛大学)
- 10:45 ④ 岐路に立つ学級経営
-管理組織としての「学級制」の問題-..... 97
堀切 勝之(近畿大学)
- 11:15 ⑤ 教授-学習活動の一方向的コミュニケーションを克服する試み
-教授-学習活動と学級活動の連続性の視点から-..... 98
○小川 博久(聖徳大学)
○岩田 遵子(東横学園女子短期大学)

自由研究14

(第一共通棟305講義室)

司会者 庄 司 他人男 (福島大学名誉教授)
中 野 和 光 (美 作 大 学)

- 9:15 ① カミンズによる「CALP (学習言語能力)」仮説の批判的検討…………… 99
藤 井 玲 子 (東京大学大学院)
- 9:45 ② スウェーデンの高校教育における学力観
—全国学力テストの分析を通して—…………… 100
本 所 恵 (京 都 大 学 大 学 院)
- 10:15 ③ カナダの学校と企業の教育活動
—宣伝と抵抗—…………… 101
上 杉 嘉 見 (東京学芸大学)
- 10:45 ④ 知識の「コト」化学力論へ3
—反表象主義学力論の試み—…………… 102
小笠原 喜 康 (日 本 大 学)
- 11:15 ⑤ 中学校選択への親の関与と子どもの生活の実態
—子ども・保護者の中学校選択に関する意識と行動調査 (2007年) から— …… 103
○子 安 潤 (愛 知 教 育 大 学)
○橋 本 尚 美 (ベネッセ教育研究開発センター・研究員)

自由研究15

(第一共通棟306講義室)

司会者 田 中 耕 治 (京 都 大 学)
諸 岡 康 哉 (金 沢 大 学)

- 9:15 ① 「田原本プラン」における学習評価に関する検討…………… 104
坂 井 誠 亮 (兵庫教育大学大学院)
- 9:45 ② 協同の学びを実現する, 学習集団形成モデルと教師の力量形成モデルの
デュアルシステム…………… 105
○水 野 正 朗 (名古屋大学大学院)
原 田 信 之 (岐 阜 大 学)
- 10:15 ③ 教育評価における妥当性・信頼性に関する一考察…………… 106
北 川 剛 司 (広島大学大学院)
- 10:45 ④ ユニバーサルデザインの授業づくり…………… 107
宮 原 順 寛 (長 崎 県 立 大 学)
- 11:15 ⑤ デューイ実験学校のカリキュラムにおけるオキュペーション
—「実験学校ワークレポート」の社会的オキュペーションの考察をふまえて— …… 108
中 野 真 志 (愛 知 教 育 大 学)

自由研究16

(第一共通棟307講義室)

司会者 安彦忠彦(早稲田大学)
小野擴男(岡山大学)

- 9:15 ① ドイツ教授学におけるカリキュラム的教授学の位置と役割…………… 109
樋口裕介(広島大学大学院)
- 9:45 ② 教室談話における教師の役割についての一考察
—自律した学び手の育ちを志向する授業の分析をもとに—…………… 110
吉永紀子(福島大学)
- 10:15 ③ クラフキ「鍵的問題」構想の再考…………… 111
高橋英児(山梨大学)
- 10:45 ④ 「学習の共同化」論の枠組みに関する検討(2)
—学びの共同体論・学習集団論を中心に—…………… 112
○今井理恵(大阪市立大学大学院)
○上森さくら(大阪市立大学大学院)
長瀬美子(大阪大谷大学)
久田敏彦(大阪教育大学)
○福田敦志(大阪樟蔭女子大学)
船越勝(和歌山大学)
湯浅恭正(大阪市立大学)

自由研究17

(第一共通棟308講義室)

司会者 梅原利夫(和光大学)
白石陽一(熊本大学)

- 9:15 ① 教師による共同研究のあり方の一考察
—授業観の更新を求めて—…………… 113
○安谷元伸(滋賀大学大学院・研究生)
清水毅四郎(滋賀大学)
- 9:45 ② 教育評価研究の動向と課題
—教室におけるダイナミック・アセスメントの観点から—…………… 114
平田知美(広島大学大学院)
- 10:15 ③ 校内授業研究会における教師の専門的力量的形成過程…………… 115
北田佳子(東京大学大学院)
- 10:45 ④ Action Research と Lesson Study に関する一考察…………… 116
倉本哲男(佐賀大学)
- 11:15 ⑤ 持続可能な学校改革
—活動理論からのアプローチ—…………… 117
山住勝広(関西大学)

自由研究18

(第一共通棟309講義室)

司会者 天野正輝(龍谷大学)
田代裕一(西南学院大学)

- 9:15 ① 大学英語教育における読解スキル指導の試み
—スキーマの活用を伴うコミュニケーション活動に焦点を当てた授業編成— 118
亘理陽一(静岡理工科大学・特命講師)
- 9:45 ② 農業高校における研究授業を軸とした大学院教育プログラムの開発 119
大野栄三(北海道大学)
- 10:15 ③ 教職教育における模擬授業の評価と指導方法に関する研究 120
吉田誠(尚絅大学)
- 10:45 ④ 学校ケースメソッドの理論 121
安藤輝次(奈良教育大学)
- 11:15 ⑤ 集中講義における学習支援の方法
—二種類の集中講義での試み— 122
○島田昌幸(群馬社会福祉大学)
○江原京子(群馬社会福祉大学)

自由研究19

(第一共通棟310講義室)

司会者 阿部昇(秋田大学)
三上勝夫(北海道教育大学)

- 9:15 ① 子どもが主体的にイメージを深化させる文学教材の授業
—核となる単語の意味を発達させる最近接領域での追究を通して— 123
石井俊樹(名古屋市立大森小学校)
- 9:45 ② 仮説演繹法による文学表現の言葉(大江健三郎)の有効性の検証
—「医者様をよばなくっちゃ。」「こわくて、びくくらして、
豆太はじさまにとびついた。」(モチモチの木)を対象として— 124
松山豊(福島県郡山市立小山田小学校)
- 10:15 ③ 国語教育における「記録」の位置 125
牧戸章(滋賀大学)
- 10:45 ④ 文学教材の授業過程における、言葉の意味の自覚的・随意的適用
(言葉の意味の発達)に関する実証的研究 126
森川拓也(三重県伊賀市立壬生野小学校)
- 11:15 ⑤ 文学教材の授業におけるイメージ変化と単語の意味の変化(発達)との関係
—「文学表現の言葉」によって生活的概念の自覚性を高める方法— 127
宮坂義彦(元・三重大学)

10月12日(日) 9:15~11:55

自由研究20

(第一共通棟311講義室)

司会者 藤井啓之(愛知教育大学)
藤田昌士(元・立教大学)

- 9:15 ① 道徳の授業における読み物資料テキストと探究プロセスの
対話性についての一考察…………… 128
菊地真貴子(東北大学大学院)
- 9:45 ② コールバーグ道徳教育論における教師の存在再考…………… 129
小林将太(筑波大学大学院)
- 10:15 ③ 異文化間コンフリクトにおける教師の調整
ーニューカマーの子どものいる教室での事例をもとにー…………… 130
金井香里(法政大学・非常勤)
- 10:45 ④ 韓国の社会変化と多文化教育…………… 131
千鎬誠(韓国全州教育大学校)

自由研究21

(第一共通棟312講義室)

司会者 桂直美(三重大学)
権藤敦子(広島大学)

- 9:15 ① 知的障害者の音楽作品の根底にあるもの
ー青年は音で何を表すのかー…………… 132
下出美智子(大阪大学大学院)
- 9:45 ② 子どもはどう学校音楽を経験するか
ー学校音楽カリキュラムの再構築ー…………… 133
笹野恵理子(立命館大学)
- 10:15 ③ 4歳児への「大人の方向づけ」の特性について
ー劇化表現を生かした音楽経験プログラムの活動事例の考察からー…………… 134
佐野美奈(大阪樟蔭女子大学)
- 10:45 ④ 関係としての身体と音の共生の現場としての「初等音楽科教育法」
ー理論と実践の臨界の場を創り出すー…………… 135
瀬戸郁子(香川大学)

自由研究22

(第一共通棟313講義室)

司会者 西岡 けいこ (香川大学)
山本 理絵 (愛知県立大学)

- 9:15 ① 〈生活者〉としての育ちをうながす幼稚園教育実習指導の展開 (1)
—目指す保育者像への着目— 136
○安部 孝 (埼玉純真短期大学)
草 信 和 世 (埼玉純真短期大学)
- 9:45 ② 〈生活者〉としての育ちをうながす幼稚園教育実習指導の展開 (2)
—生活用具を媒介として— 137
○草 信 和 世 (埼玉純真短期大学)
安部 孝 (埼玉純真短期大学)
- 10:15 ③ 看護学実習におけるコミュニケーションに関する学生の学び
—基礎看護学実習後のレポート分析を通して— 138
芥川 清香 (広島国際大学)
- 10:45 ④ 保育実習 (園側) と教科科目 (学校側) の評価と課題
—保育実習 (I) と保育原理・保育内容 (環境) から考える— 139
寺島 明子 (松本短期大学)
- 11:15 ⑤ ドラマによる保育者養成の意義
—イギリスの Drama in Education の実践例を通して— 140
小林 由利子 (東横学園女子短期大学)

自由研究23

(第一共通棟314講義室)

司会者 穴戸 健夫 (同朋大学)
豊田 和子 (桜花学園大学)

- 9:15 ① 「赤ちゃん人形イメージワーク」の実践と検証
—保育学科生を対象として— 141
塚本 美由紀 (芦屋大学大学院)
- 9:45 ② 就学移行期における「発達の連続性」とは何か
—ヴィゴツキー発達論を手がかりに— 142
岡花 祈一郎 (広島大学)
- 10:15 ③ 離乳食介助場面における子どもの「主導性」の発揮
—食事介助における保育者と子どもの「相互交渉」を通して— 143
根津 明子 (東横学園女子短期大学)
- 10:45 ④ 幼年教育の専門性に向けての取り組み 144
上野 ひろ美 (奈良教育大学)
- 11:15 ⑤ 幼小人事交流体験者への質問紙調査
—交流形態の違いからの分析— 145
○芦田 宏 (兵庫県立大学)
門田 理世 (西南学院大学)
小田 豊 (国立特別支援教育総合研究所)
秋田 喜代美 (東京大学)
鈴木 正敏 (兵庫教育大学)
野口 隆子 (十文字学園女子大学)
箕輪 潤子 (川村学園女子大学)

10月12日(日) 13:00~15:00

課題研究Ⅲ

学級経営・学級づくりの再検討

(第二共通棟411講義室)

コーディネーター・司会者

折出 健 二 (愛知教育大学)

河原 尚 武 (鹿児島大学)

提案者

浅川 陽 子 (お茶の水女子大学附属小学校, お茶の水女子大学・非常勤)

学級・学年のなかまと共に「公共性」を育む…… 146

柏木 修 (神奈川県小田原市立白山中学校) 今、なぜ集団づくりか…… 148

指定討論者

山本 敏 郎 (日本福祉大学)

〈設定趣旨〉

学校改革の様々な取組や論議の中で、学級は翻弄され、振り回されてきた感がある。いま、新学習指導要領でも、学級という単位集団の重視、あるいは集団の一員の自覚の指導がより前面に出ている中で、改めて学級の教育的な役割と意義を問い直したい。また、学級経営概念の刷新も含めて、今後の実践的・理論的研究の課題についても論議したい。

概念の明確化や再確認、検証とともに、学級経営、学級づくりに関わる力をどのように継承、伝達、形成するのかという問題、あるいは学級をめぐる困難な状況が生じている中で、いま学級というものに対する親や子どもの願い、期待は実際のところどのようなものなのかといった問題（果たして学校の側が的確にとらえ切れているのかどうか）なども、提案やコメントで触れられるとよいのではないかと考えている。

課題研究Ⅳ

授業力の育成と教職大学院の課題

(第二共通棟421講義室)

コーディネーター・司会者

上野 ひろ美(奈良教育大学)

三石 初雄(東京学芸大学)

報告者

白井 嘉一(国士舘大学) 教育方法学研究と「授業力」の育成

—大学・大学院の位置と役割—…………… 150

寺岡 英男(福井大学) 授業力の育成と教職大学院の課題

—学校拠点に教師の協働実践力を培う

取組みを通して—…………… 152

吉田 明史(奈良教育大学) 連携協力校における授業研究…………… 154

指定討論者

石川 英志(岐阜大学)

〈設置趣旨〉

この課題研究は、学校教育改革を担う実践的指導力が強調され、高度な教師教育が期待されている中での教職大学院の課題と可能性を探ることを目的として、次のような観点に留意しながら議論していきたい。

- 1) 実践的指導力の中核としての授業力を向上させるための授業研究は、教職大学院ではどのような内容と質、形態で行われるのか。
- 2) 高等教育機関・大学ならではの教員養成・現職研修の可能性と条件を探る。
- 3) 教職大学院と教育行政の連携の現状と在り方を探る。

そのために、1) 授業力育成と教育方法学研究の観点から、2) 教職大学院を設置し、地域に拠点校を設置した授業改善の試みと課題、3) 学校教育現場から見た授業力育成と教職大学院への期待と要望、そして4) 地域教育委員会との連携の実績と経験に基づいた、指定討論者からのコメントをもとに、全体で議論していきたい。

ラウンドテーブル①

集積された授業記録の研究・活用可能性
— 重松鷹泰氏が中心となって収集された授業記録群をめぐって —
(第一共通棟303講義室)

コーディネーター及び話題提供者

田 上 哲 (九 州 大 学)

協力者

田 代 裕 一 (西 南 学 院 大 学)

倉 本 哲 男 (佐 賀 大 学)

授業記録の収集に関わった実践者、研究者(現在、未定)

〈設定趣旨〉

現在、愛知教育大学附属教育実践総合センターには、帝塚山学園授業研究所から移管された1万1千点以上の授業記録が整理保管されている。

この授業記録群は名古屋大学教育学部教育方法学研究室において、日本において最初に詳細な授業記録に基づく授業分析に取り組んだことで知られる故重松鷹泰氏が、後に帝塚山学園授業研究所長であった時期から意識的に全国より収集したものである。

これらの記録は、愛知教育大学への移管に当たっての実質的な責任者であった霜田一敏氏と愛知大学教科教育センターによって、二分冊の目録が作成され、いくつかの記録をまとめ製本した状態で保管されており、誰でも閲覧可能な状況にある。

収集された記録は、1950年代末から1980年代末のものが中心であり、小学校中学校高等学校の各学校段階の各教科の教育記録のみならず、総合学習、特別活動、特殊教育、また、幼稚園教育(幼児教育)、事例研究の記録まで、多様なものが含まれている。

授業記録は、授業分析、授業研究の第一次資料であり、これだけの数集積された例は、国内外でもほとんど見あたらず、貴重なものといえよう。しかし、現状としては研究者や実践者によって十分に利用、活用されているとはいえない。また、記録が紙媒体であるため、製本されてはいるものの劣化が進んでいるものもあり、このままでは、十分に利用、活用されないまま資料の価値が減じていく可能性もある。

重松氏は、授業記録は「授業のかんづめ」であるとして、それをどう料理するかは料理人の考えにまかされると言う。

本ラウンドテーブルでは、重松氏が中心となって集積された授業記録にどのような意義、資料的価値を見出せるのか、そしてまた、研究者や実践者がそれらをどのように利用、活用していくことができるのか、参加者の方々とともに考えてみたい。

ラウンドテーブル②

書くこと「を」学ぶことと書くこと「で」学ぶこと

— 書くことの「意欲」「欲動」「衝動」を基点として —

(第一共通棟304講義室)

企画・司会

牧 戸 章 (滋 賀 大 学)

話題提供Ⅰ

磯 貝 淳 一 (鈴峯女子短期大学)

森 美智代 (鈴峯女子短期大学)

話題提供Ⅱ

岩 田 昌 子 (鈴 鹿 短 期 大 学)

長 澤 貴 (鈴 鹿 短 期 大 学)

コメンテーター

大 杉 稔 (滋賀県高島市立新旭北小学校)

〈設定趣旨〉

学習は、ある文脈における行為であり、学習者がおかれる文脈との関係でみられなければならない行為である。書くことの学習も同様に、書き方が分かる分からない、書く内容がある、ないといった教育方法や、教育内容の次元のみで捉えるべきではなく、書き手のおかれる文脈を考慮に入れて考えられなければならない行為である。加えて、そもそもなぜ書くのか、書くことができるのか、書かねばならないのか、という視点が保留されたまま、「表現力不足」と言われ続けつつも、授業実践が重ねられているのではないだろうか。「他者」である教員がどのような「信念」をもって、どのような「位置」に立って、「学び」をデザインし、実践していけばよいのかに資するような議論の場にしたい。そのために、短期大学における具体的な実践事例を取り上げるが、その観点は次のとおりである。

Ⅰ 学生たちにとって「書くこと」は必ずしも必要を感じられることではない。にもかかわらず、教員は各々の研究者としての専門性という名の学問領域の体系にとらわれ、学生の必要を予め決められたものへとあてはめる方向にしか機能していない。学生の必要＝“書く意味”から立ち上げ、「学問的な」「問い」へと位置づけることができる専門性の必要を感じている。この問題意識を「衝動」という語を「基点」として捉え直す。

Ⅱ 学生は、大人になること、何者かになることといったアイデンティティーの獲得の問題、さまざまな人間関係が引き起こすアイデンティティーの葛藤の問題をはじめとする心の成熟度をめぐる問題に直面している。この問題は、さまざまな学習の文脈を形成している。書くことの学習においては、何かを書くために何かを理解するという行為にも、心の成熟度を巡る問題が文脈として存在する。そして、書くという行為が、他者へ自らをさらす行為である以上、心の成熟度の問題が書くという行為に大きく影響を与えている。

ラウンドテーブル③

授業者の立場から「発達の最近接領域」の具体像 (文学教材の授業)を追求する試み(1)

(第一共通棟307講義室)

司会・提案者

宮坂義彦(元・三重大学)

問題提起者

石井俊樹(名古屋市立大森小学校)

松山豊(福島県郡山市立小山田小学校)

森川拓也(三重県伊賀市立壬生野小学校)

〈設定趣旨〉

私たちは、文学教材の分野で発達の最近接領域を活かす授業研究を続けてきた。その過程で以下に挙げたさまざまな困難に出会い、問題を感じてきた。それをここで率直に提示し、参会者と検討し合うことを願っている。

困難点および問題

- ① 発達の最近接領域の理論が紹介されてはつばつ50年になろうとしている。この間、わが国の授業実践はこの理論によってどれだけ影響を受けてきただろうか。ほとんど受けなかったのではないだろうか。なぜだろうか。
- ② 科学的概念を教える理科、数学・算数、社会科の授業では発達の最近接領域は不要ではないか。しかし後半の段階「具体的適用の領域」「経験の領域」に未成熟の機能があり、必要となるのだろうか。
- ③ 体育の授業(側転など)では自覚的な知覚・注意の機能を引き出すのに発達の最近接領域は有用ではないか。
- ④ どの教科でも成熟しつつある機能はすべて発達の最近接領域での授業が可能だろうか。
- ⑤ 生活的概念の自覚性を高めるために、発達の最近接領域が最も必要になるのは国語科の説明文教材、文学教材の授業ではないか。しかしこの教科でも詰め込みの授業の場合には、生活的概念で用が足り、不必要である。
- ⑥ 「子どもの発達の最近接領域とは、自主的に解決される問題によって規定される子どもの現下の発達水準と大人に指導されたり、自分よりも知的な仲間との協同のなかで解決される問題によって規定される可能的発達水準との間の隔たりである」(「発達の最近接領域」の理論) 条件を満たしていればどの学級にも発達の最近接領域があると考えてよいのか。
- ⑦ 生活的概念から科学的概念へ移行する過程では、子ども自身の内部に「概念の高次の特性の習得に必要な一連の構造」が用意できていなければ発達の最近接領域内での発達の可能性はありえないのではないだろうか。
- ⑧ 移行可能な発達の最近接領域は個別的なものである。しかも「最近接」は「厳密に決定される一定の範囲のみ」という限定がある。一時間の授業に多数の子どもの発達の最近接領域が共存すると考えてよいだろうか。
- ⑨ 文学教材の授業の場合、生活的概念から科学的概念へ移行する過程で生じる次のような問題をどう解決したらよいのだろうか。
 - ① 理科、社会科、算数・数学などで科学的概念の定義づけをおこない、概念を体系的に理解させ、自覚性、随意性を引き出すことは生活的概念の改造の道を「踏み均す」条件となるのだが、少数の概念でも十分か。
 - ② 教師のみならず多くの成人が生活的概念の科学的概念化を達成してないのが現状だが、その原因は何か。その教師に発達の最近接領域での指導ができるだろうか。どうしたら展望が開かれるだろうか。
 - ③ 教材は任意のものでよいのか。私たちは「文学表現の言葉」を対象とするのでなければ発達の最近接領域は成り立たないと考える。
 - ④ 生活的概念の自覚化は主として接続詞・接続助詞(とりわけ逆接の)、(補助)動詞、形容詞、副詞、助動詞(アスペクト)、助詞などで行なっているが、教材上の問題から発達の最近接領域後の単独で模倣を行う機会を保障する研究に成功していない。

10月12日(日) 15:20~16:50

ラウンドテーブル④

教育方法のトポロジー
— ドラマワークによる文学作品の読解と教材開発 —
(第一共通棟308講義室)

企画・話題提供者

渡部 淳 (日本大学)

共同研究者

小林 由利子 (東横学園女子短期大学)

深澤 広明 (広島大学)

渡辺 貴裕 (岐阜経済大学)

宮原 順寛 (長崎県立大学)

藤井 洋武 (日本大学大学院)

〈設定趣旨〉

子どもの“悪と嘘”を描いた児童文学作品に「菌型」(丘修三・作)がある。障害をもつ「あいつ」をいじめた小学生の「ぼく」が、事実を打ち明けられないままウソを重ねていく物語である。

この「菌型」を素材としたドラマワークの開発に宮崎充治氏(桐朋小学校)が取り組み、日本演劇教育連盟「第57回全国演劇研究集会」(全劇研)でその成果を公開した。参加型アクティビティの体系化に取り組む「獲得型教育研究会」(代表:渡部淳)が全面的に取り組みをサポートする体制をとった。

全劇研のドラマ・ワークショップに参加したのは、桐朋小学校の6年生たち。ドラマワークでは、参加者自身が演じる側と観る側を往復しつつ作品世界を体感し、多様な角度から認識を深めていく。上演に向けて取り組むシアターとは異なる構造をもつ活動である。

本ラウンドテーブルでは、まずドラマワークの開発プロセスと運用の実際を共有していただき、この実践を手がかりとして教育方法としてのドラマワークの可能性と限界について検討してみたい。

日本教育方法学会刊行書籍

教育方法13.	いま授業で何が問われているか	1983	(2,472円)
教育方法14.	子どもの人間的自立と授業実践	1985	(2,940円)
教育方法16.	個性の開発と教師の力量	1987	(2,520円)
教育方法17.	教育方法を問い直す	1988	(3,045円)
教育方法18.	新教育課程と人間的感性の育成	1989	(2,039円)
教育方法19.	知育・徳育の構想と生活科の指導	1990	(1,794円)
教育方法20.	学校文化の創造と教育技術の課題	1991	(1,794円)
教育方法22.	いま、授業成立の原則を問う	1993	(1,896円)
教育方法23.	新しい学力観と教育実践	1994	(1,896円)
教育方法25.	戦後50年、いま学校を問い直す	1996	(1,998円)
教育方法26.	新しい学校像と教育改革	1997	(1,890円)
教育方法27.	新しい学校・学級づくりと授業改革	1998	(2,058円)
教育方法28.	教育課程・方法の改革		
	—新学習指導要領の教育方法学的検討—	1999	(1,953円) (価格は税込)

〒170-0005

東京都豊島区南大塚2-39-5

明治図書

TEL.(編)03-3946-3151・3152

TEL.(営)048-256-1175

【教育方法】は、大会当日、会場にて大会割引価格にて販売いたします。

この機会に多数の方々のご購入をお願いいたします。

【教育方法29】より、図書文化から出版されることになりました。

教育方法29.	総合的学習と教科の基礎・基本	2000	(1,890円)
教育方法30.	学力観の再検討と授業改革	2001	(1,890円)
教育方法31.	子ども参加の学校と授業改革	2002	(1,995円)
教育方法32.	新しい学びと知の創造	2003	(1,995円)
教育方法33.	確かな学力と指導法の探求	2004	(1,995円)
教育方法34.	現代的教育課程改革と授業論の探求	2005	(1,995円)
教育方法35.	学習意欲を高める授業		
	—どのような学力を形成するか—	2006	(2,100円)
教育方法36.	リテラシーと授業改善		
	—PISAを契機とした現代リテラシー教育の探究—	2007	(2,100円) (価格は税込)

最新刊・教育方法37.

現代カリキュラム研究と教育方法学

—新学習指導要領・PISA型学力を問う—

〈内 容〉

- I. 新学習指導要領とカリキュラム研究の課題
- II. PISA調査とカリキュラム研究
- III. 現代カリキュラムの諸問題と教育方法学
- IV. 教育方法学の研究動向

〒112-0012

東京都文京区大塚1-4-5

図書文化

TEL. 03-3943-2516